

通学路における子どもの安全に関する基礎的研究

岩手大学 学生員 ○鈴木孟徳 岩手大学 正会員 南 正昭
 岩手大学 正会員 赤谷隆一 岩手大学 学生員 谷本真佑

1. はじめに

近年、子どもを巻き込む事件・事故が多発しており、防犯、防災、交通事故等の観点から、子どもの安全・安心の確保への関心が全国的に高まっている。しかし、一方で、現代社会は、核家族化や夫婦共働きの家庭の増加などにより、家族のつながりや地域のつながりが薄れてきており、子どもの安全・安心を守るための新たな環境の整備が急がれている。

岩手県では、平成 19 年 4 月 1 日に岩手県犯罪のない安全で安心なまちづくり条例が施行された。子どもの安全・安心の確保には、子どもへの情報提供や安全意識の向上を促すとともに、学校、保護者、地域住民、警察等の地域を上げた取り組みが必要となってきた。

岩手県内でも、保護者やボランティアによる通学時の子どもの見守り活動や、防犯パトロール、防犯訓練などが行われているが、岩手大学の附属小学校・附属中学校・附属幼稚園は、学校近隣のみではなく、盛岡市内から広く生徒・園児を受け入れているという特徴を有しており、すべての子どもを見守るといった活動は難しい現状にある。

本研究では、子供の通学実態及び保護者の通学路における子どもの安全に対する意識に関するアンケート



図-1 対象とした学校の位置

調査を実施した。その意識がどのような要因によって構成されているか分析することで、子どもの通学路における安全対策を検討、提案することを目的とする。

2. 研究方法

(1) アンケート調査の概要

本研究では、図-1 に示される岩手大学教育学部附属小学校、附属中学校、附属幼稚園、城南小学校、上田小学校の保護者を対象に平成 19 年 11 月に実施されたアンケート調査データを使用する。アンケートでは子供の通学実態や、通学路における子どもの安全に対する意識を調査した。

表-1 防犯に対する不安感との回答傾向

従属変数: 通学路の防犯に不安を感じるか	附属幼稚園 (n=124)	附属小学校 (n=493)	附属中学校 (n=370)	城南小学校 (n=223)	上田小学校 (n=218)
防犯上、危険な経験はあるか	0.11	0.01	0.00	0.01	0.15
防犯上、危険な経験の見聞きはあるか	0.43	0.00	0.00	0.04	0.00
子供が地域から守られていると感じるか	0.77	0.00	0.06	0.33	0.83
通学路を子供と一緒に歩いたことがあるか	0.05	0.05	0.24	0.87	0.27
通学路をご存知か	0.83	—	0.69	—	—
通学路で一人になることはあるか	0.96	—	—	0.88	—
携帯電話の所有状況	0.05	0.97	0.33	0.80	0.79
性別	0.83	0.00	0.00	0.14	0.04
学年(小学校のみ、5・6年かどうか)	—	0.67	—	0.61	0.02
直帰日数(週2日未満か3日以上か)	—	0.32	0.01	0.97	0.50
登校所要時間(10分未満か10分以上か)	—	0.51	0.00	0.66	—
下校所要時間(0~20分)かどうか	0.09	0.44	0.23	0.88	0.04
下校所要時間(20~40分)かどうか	0.27	0.88	0.17	0.77	0.08
交通手段がバスか	0.96	0.50	0.11	0.88	—

※表中の数値は p 値を表わす

1%有意

5%有意

※直帰日数：立ち寄りせずに帰宅する日数

キーワード：子どもの防犯、通学路の安全、安全安心まちづくり

連絡先：盛岡市上田 4-3-5 TEL, 019-621-6454 FAX, 019-621-6460

表-2 通学路の防犯に対する不安感の要因分析

従属変数： 通学路の防犯に不安を感じるか	附属幼稚園 (n=124)		附属小学校 (n=493)		附属中学校 (n=370)		城南小学校 (n=223)		上田小学校 (n=218)	
	case1	case2								
防犯上、危険な経験はあるか	3.22	2.87	2.47	2.51	3.29	3.15	5.61	5.50	1.58	1.79
防犯上、危険な経験の見聞きはあるか	5.08	4.67	2.58	2.63	2.23	2.27	1.56	1.57	2.77	2.42
子供が地域から守られていると感じるか	0.47	0.52	0.47	0.48	0.59	0.61	0.69	0.69	0.77	0.76
通学路を子供と一緒に歩いたことがあるか	—	—	4.66	4.69	1.08	1.11	1.07	1.03	0.19	0.23
携帯電話の所有状況	3.95E+06	—	0.97	—	1.70	—	1.53	—	1.64	—
性別	0.55	0.52	0.57	0.57	0.51	0.48	0.68	0.71	0.47	0.43
学年（小学校のみ、5・6年かどうか）	—	—	1.05	1.07	—	—	1.46	1.46	2.43	2.42
直帰日数（週2日未満か3日以上か）	—	—	1.22	1.26	1.86	1.78	0.88	0.87	1.63	1.48
登校所要時間（10分未満か10分以上か）	1.00	0.75	0.71	0.79	0.31	0.32	0.83	0.87	—	—
下校所要時間（0～20分）かどうか	0.60	—	0.88	—	1.16	—	0.93	—	1.14	—
下校所要時間（20～40分）かどうか	7.22	—	0.89	—	1.42	—	0.90	—	2.88	—
交通手段がバスか	0.99	—	0.79	—	1.04	—	0.61	—	—	—
定数項	0.00	0.77	1.48	1.07	1.31	2.33	1.34	1.80	3.03	5.71

※表中の数値は調整オッズ比を表わす

※直帰日数：立ち寄りせずに帰宅する日数

99%信頼区間にて有意性が示される

95%信頼区間にて有意性が示される

(2) 分析方法

子どもの通学時間や通学手段など通学実態から、保護者に対し防犯上の不安を与えている要因を独立性の検定により分析した。

次に、「防犯に不安を感じるか」と独立変数との間に求められる調整オッズ比を算出して、両者の関連性について分析した。

3. 分析結果

(1) 通学路の防犯に対する不安感との回答傾向

「通学路の防犯に不安を感じるか」と項目との回答傾向を独立性の検定より求めたところ、表-1の結果が得られた。

分析の結果、全体としてみると附属幼稚園では回答傾向に有意性が見られなかった。「防犯上、危険な経験の見聞きはあるか」「防犯上、危険な経験はあるか」「性別」と回答傾向の類似性が見られたものの、各学校によって回答傾向の違いが見られる。

(2) 通学路の防犯に対する不安感の要因分析

通学路の防犯に対する不安感との関連性について調整オッズ比により求めたところ、表-2の結果が得られた。表-2中の case1 は、分析対象とした全項目について得られたオッズ比、case2 は、case1において、いずれかの校舎で有意性が見られた全ての項目について調整オッズ比を算出した結果である。

分析の結果、全体として見てみると、通学範囲が学校周辺に限られる城南、上田小学校に比して、通学範囲が広範にわたる附属小、中学校において有意性が示される項目が多い傾向が確認され、「子どもが地域から守られ

いるかで有意性の違いが見られた。理由として、保護者が地域から守られていると感じる割合が城南、上田小学校は8割であるに比して、附属中、小学校はそれぞれ6割と7割と差があることが考えられる。附属、城南小学校は学校の所在地が近いにも関わらず有意性の確認された項目に違いが見られ、通学路の防犯に対する不安感の要因に通学範囲の違いが関連している結果が得られた。また、附属校舎で比較すると、附属小、中学校に比して附属幼稚園で有意性が示される項目が少ない傾向が確認された。理由として、登校園に利用される交通手段の特徴が挙げられ、附属小学校はバス、附属中学校は自転車であるが、附属幼稚園はその多くは保護者同伴の自家用車であるからだと考えられる。城南、上田小学校で比較しても有意性が示される項目に違いが見られ、通学範囲が学校周辺に限られても、学校所在地によって通学路の防犯に対する不安感と関連する項目に違いが見られた。

4. まとめ

本研究では、「通学路の防犯に不安を感じるか」の意識の構成要因について考察を行った。通学範囲が周辺地域に限られる城南、上田小学校に比して、通学範囲が広範にわたる附属小、中学校において有意性が示される項目が多い傾向が確認され、犯罪の見聞きなどが不安感と関連があることを示した。これらの要因について改善策を考察し、子どもの安全対策への活用を図りたい。